

## 彦根城博物館だより

2009年  
6月1日

35

## Hikone Castle Museum News

編集・発行 彦根城博物館

## 井伊直弼と開国150年祭 ～平成22年(2010年)3月24日～

井伊直弼(1815～60)が江戸幕府大老となり、日米修好通商条約を締結した安政5年(1858年)から150年。平成20年に開幕した「井伊直弼と開国150年祭」では、日本の開国に大きな役割を果たした直弼の人物像を、彦根市から全国へと発信します。

**直弼発見!** 直弼にまつわるテーマを掘り下げて順次開催

**直弼のころ** 直弼ゆかりの作品を月1回の展示替で次々に紹介

## テーマ展 湖東焼絵付師 自然齋

平成21年(2009年)5月22日(金)～6月23日(火) 展示室1

彦根藩内で民間の絵付師の一人として湖東焼制作に携わった自然齋。幕末から明治にいたる作品を紹介します。

## シリーズ「直弼発見!」巻の7 井伊直弼を支えた人々

平成21年(2009年)6月26日(金)～7月22日(水) 展示室1



井伊直弼が藩主、さらに大老として活躍した背景には、それを支えた多くの家臣たちの存在を見逃すことはできません。埋木舎での部屋住み時代より心を許した老臣犬塚外記、直弼へ君主としての道を説いた儒学者中川祿郎、国学の師でもあり京都で情報収集に奔走した長野義言、公用人として大老政治を補佐した宇津木景福など、直弼の活動を支えた人物を紹介します。

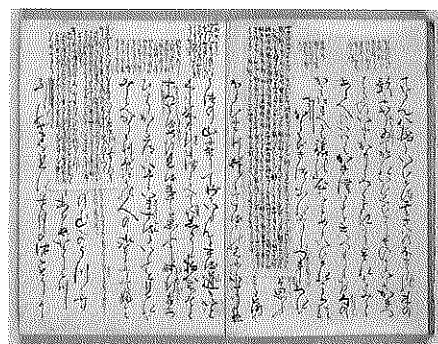
ギャラリートーク 6月27日(土) 午後2時～ 学芸員 野田浩子

## シリーズ「直弼発見!」巻の8 井伊直弼の書と古典研究

平成21年(2009年)7月25日(土)～9月1日(火) 展示室1

近年、井伊直弼が茶の湯の研鑽に励んだことは知られるところとなりましたが、和歌を含む国学にも力を注いでいました。早くから熱心に古典の勉強をし、歌会に参加するなどしていましたが、天保13年(1842)、国学者長野義言と師弟の契りを結ぶことにより、本格的な国学の研究に開眼しました。本展では、直弼が書写した古典や自詠の和歌などを紹介します。

ギャラリートーク 7月25日(土) 午後2時～ 学芸員 高木文恵



## テーマ展 井伊家伝来の馬具

平成21年(2009年)9月4日(金)～9月28日(月) 展示室1

鞍や鐙、轡などの馬具は、武士にとって必須の道具であり、贈答品として用いられることもありました。彦根藩主井伊家では、黒漆に家紋を表した式正の鞍をはじめ、大名に相応しい馬具が調えられました。本展では、將軍からの拝領品を含む様々な伝来の馬具を紹介するとともに、鞍の多彩な漆芸技法に注目します。



ギャラリートーク 9月5日(土) 午後2時～ 学芸員 坪内広子

## 直弼茶会と時間



幕末の大老として知られる井伊直弼は、江戸時代後期を代表する大名茶人でもありました。直弼は政治家として多忙な中でも、茶の湯研究の成果を著作にまとめ、数多くの茶会を催して茶の湯の実践を重ねました。

博物館が所蔵する直弼の著作の中に、折々に催される茶会の内容を記した『茶湯をりをり草』という書物があります。そこには、季節や時刻、行事や道具、茶会を催す亭主と招かれる客の関係などに拠って生まれてくる、それぞれの茶会のテーマと心配りが記されています。その中に、1日の時間の移り変わりの中で行われる茶会が5会取り上げられています。それぞれの会は、行われる時間帯が異なり、客が参集する時刻や、そろって茶席に席入する時刻が下の表のように記されています。

名称	時間帯	客の参集の時刻	席入の時刻
暁来会	早朝	七つ時	寅の下刻
朝会	朝	六つ時	卯の下刻
正午会	昼	四つ半時	午の中刻
晚来会	夕方	(八つ半時)	申の下刻
夜会	晩	申の中刻	酉の中刻

これを1日の時間の進行を示した円グラフにあてはめると、[図1]のようになります。

江戸時代は、日の出の時刻(明六つ)と日没の時刻(暮六つ)を境に昼と夜を6等分して時刻を決める不定時法なので、昼夜の長さにかかわらず1時間の長さが一定の現在の時刻とは一致しません。[図1]の中に示した現在時刻と対応するのは、春分・秋分のころに限

られます。ただ、それぞれの茶会の参集・席入の刻限と、明六つと暮六つが昼夜の境にあたることは変わらないのですから、茶会の進行のどのタイミングに夜から昼へ、昼から夜への変化があるのかという点は、どの季節でもだいたい同じになります。

こうして見ると、「暁来会」は夜の明けぬころに集まり、席入をして、茶会の間に夜が明け、朝を迎えて退出する、ということになります。「朝会」は、日の出の時刻に参集、朝の清々しい空気の中で席入をし、昼前に退出。「正午会」は、昼前に参集、正午ころに席入をして、日の高いうちに退出。「晚来会」は、日の傾く前に参集、日が傾いたころに席入、茶会の間に日没を迎え、次第に暗くなる中で茶会が進行します。「夜会」は、夕方に参集、日没ころに席入をして、茶会は夜に及びます。それぞれの茶会は、夜から朝、朝から昼、昼から夕方、夕方から夜へと、時間の推移とともに光の加減が変化の中で営まれていくことがわかります。季節によって異なる日ざしの角度、茶会当日の天候によっても、光の具合に変化が生じたことでしょう。また、日の光が届かなくなった夕方や夜の茶室では、行灯や燭台が用いられ、昼間とは異なる光の演出が生まれます。

博物館に現存する茶会記によると、直弼は、時間帯の異なるさまざまな茶会を催しています。例えば、安政2年(1855年)3月26日、彦根城表御殿不待庵(現在の彦根城博物館木造棟庭園の北東隅にあった茶室)で行われた暁来会。この茶会では、「古芦屋立口松藤文平丸釜」[図2]が掛けられました(『彦根水屋帳』)。釜は、表面を濡らした状態で掛けたと考えられます。夜から朝へ、茶室の明るさが変化する中、湯が沸くに従って濡れた釜肌は次第に乾いていきます。春の日ざしの中、釜の表面に表された老松にかかる藤の花の文様も、次第に見え方を変えていったことでしょう。直弼自身が、刻一刻と表情を変える茶会の空間を、亭主として実感していたと思われます。

同じ茶室、同じ茶道具を用いても、茶会の季節や時間帯、茶室への採光の具合、照明道具が違うことで、空間や道具の見え方にさまざまな表情が生まれます。直弼が著した茶会のあり方、茶会記に書き残されたその時々の茶会の姿、それぞれの茶会で用いられた茶道具を合わせ見ていくことによって、茶人・直弼が茶の湯に見た「美」の具体像が浮かび上がってくるといえるでしょう。

(小井川 理)



▲ 図1 茶会の時間帯(新版角川日本史事典掲載図より作成)

▲ 図2 古芦屋立口松藤文平丸釜(当館所蔵)

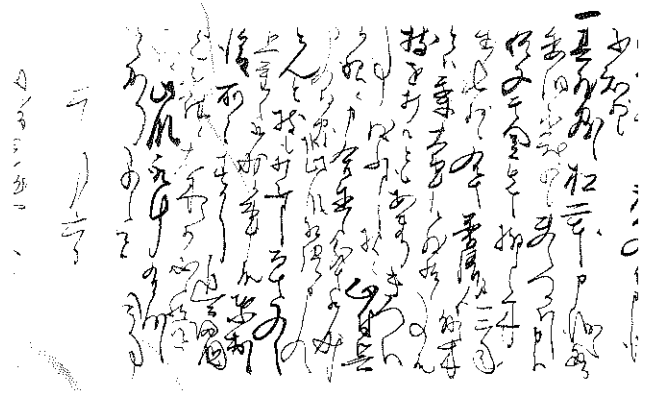
井伊直弼書状 <sup>あん どう しちろう え ん</sup> 安東七郎右衛門宛て

余寒去りかねる弘化4年(1847年)2月6日、彦根藩の世継ぎとして江戸にあった井伊直弼は、埋木舎時代の付人安東七郎右衛門に1通の手紙を認めました。世継ぎとなるために慌ただしく江戸に向かってから1年、当時、愛娘弥千代のことなど、直弼の彦根における用向きを内々に依頼されていたのが安東でした。

直弼は手紙で、埋木舎の玄関先の柳について、「わたしが大事にしているので、枝を打つにも余りきついことをしないように、(庭木を管理する)御普請方に申し含められないだろうか」と頼み、「帰国までに無難に大木になってほしい」と願っています。

直弼が「柳和舎」と号し、強くしなやかな柳に自らの心身の理想の境地を見ていたことは、よく知られているところです。21歳の時に著した居合の書に、軒先に柳を植え、その姿を眺めていると述べています。

直弼が埋木舎時代に日々向かい合った軒先の柳の若木。遠く彦根を離れても、直弼には、自らの分身のような愛おしい存在だったのでしょ。



本作品は、特集コーナー「直弼のこころ」(展示室5)にて、平成21年(2009年)7月23日～8月21日に展示します。

小学生用解説書「直政・直孝物語ー彦根を築いた井伊のお殿様ー」完成

当館では、子どもたちにもわかりやすく博物館の魅力や地域の歴史・文化を紹介するため「小学生用解説書」シリーズを作成しています。このたび、その最新刊『直政・直孝物語ー彦根を築いた井伊のお殿様ー』ができました。これは、彦根藩の基礎を築いた初代井伊直政と2代直孝を紹介するものです。

ここでは、2人の生い立ちや活躍はもちろんのこと、戦国から泰平の世へと向かう時代の転換期にあつて、彼らが国の行く末を考え、新たな社会を築く上で大きな役割を果たしたことに注目しています。また、彦根の発展の基礎を築いた功績も紹介しています。歴史上

の人物関係や考え方は、写真やイラストを使ってわかりやすく表現しています。

ぜひとも、新たな国づくりをめざした直政・直孝の想いを感じ取ってください。

この解説書は、当館のミュージアムショップで200円で販売しています。



小学生対象教室のお知らせ

はくぶつかんへ行こう

小学生を対象として、展示資料の秘密や魅力に触れる教室です。年4回開催の第2回では昔の人が書いた手紙に注目、第3回では昔ながらの遊びに挑戦します。

日時と内容

- ② 7月11日「昔ふうの手紙を書こう」
  - ③ 9月12日「するする飾り結び・ちよきちよき紋切り」
- いずれも土曜日、10:00～12:00  
※第1回は終了しました

会場 本館講堂・展示室

申込締切

- ② 6月26日(金)、③ 8月28日(金)
- いずれも当日消印有効

申込・お問い合わせ先

彦根城博物館「はくぶつかんへ行こう」係

はくぶつかんへ行こうスペシャル

夏休みの恒例となりました「はくぶつかんへ行こう」のスペシャル版です。今年は、草木染めと、抹茶を点てる体験をします。

日時と対象

- 8月1日(土)10:00～12:00 小学4～6年生
- 8月2日(日)10:00～12:00 小学1～3年生

会場 本館講堂・木造棟

申込締切 7月17日(金)当日消印有効

申込・お問い合わせ先

彦根城博物館「はくぶつかんへ行こうスペシャル」係

どちらも参加費は無料ですので、お気軽にご参加ください。

申込方法

往復ハガキ(1教室、1人につき1枚)の裏面に参加日・住所・氏名・ふりがな・学年・電話番号を、返信の表面に住所・氏名を明記の上、お申し込みください。ただし、各日も定員(各回30名)に達し次第、締め切ります。※保護者の方は催しには参加できません。

スケジュール

6月	7月	8月	9月
<p>6土 入門講座 (① ②)</p> <p>7日 入門講座 (③ ④)</p> <p>14日 彦根城表御殿 水無月狂言の集い</p> <p>20土 古文書のみかた(初級)③</p> <p>27日 ギャラリートーク 「井伊直弼を支えた人々」</p>	<p>11土 はくぶつかんへ行こう② 「昔ふうの手紙を書こう」</p> <p>18土 古文書のみかた(初級)④</p> <p>25土 ギャラリートーク 「井伊直弼の書と古典研究」</p>	<p>1土 はくぶつかんへ行こうスペシャル 小学4～6年生対象</p> <p>2日 はくぶつかんへ行こうスペシャル 小学1～3年生対象</p> <p>9日 彦根城表御殿 夕涼み 狂言の集い</p> <p>22土 古文書のみかた(初級)⑤</p>	<p>5土 ギャラリートーク 「井伊家伝来の馬具」</p> <p>12土 はくぶつかんへ行こう③ 「するする飾り結び・ ちょきちょき紋切り」</p> <p>19土 古文書のみかた(初級)⑥</p> <p>26土 井伊直弼と開国150年記念講演会 「直弼銅像と近代日本」</p>
<p>テーマ展 「湖東焼絵付師 自然齋」 5/22 金～6/23 火</p>	<p>シリーズ「直弼発見!」巻の7 「井伊直弼を支えた人々」 6/26 金～7/22 水</p>	<p>シリーズ「直弼発見!」巻の8 「井伊直弼の書と古典研究」 7/25 土～9/1 火</p>	<p>テーマ展 「井伊家伝来の馬具」 9/4 金～9/28 月</p>

**展示** “ほんもの”との出会い —井伊家伝来の名宝80点あまりを展示—  
 ◎特集コーナー「直弼のこころ」  
 ※1ヵ月ごとに展示替えがあります

催し

毎年、ご好評をいただいている夕涼み狂言。  
 能楽狂言方大蔵流の名家、茂山家勢ぞろいの舞台を  
 お楽しみください。

彦根城表御殿  
 夕涼み 狂言の集い

8月9日(日)  
 午後6時30分開演  
 本館 能舞台



▲大蔵流狂言「千切木」より

演目・出演

大蔵流狂言 「無布施経」

茂山千之丞 松本薫 丸石やすし

大蔵流狂言 「水掛罨」

茂山茂 茂山千五郎 井口竜也

大蔵流狂言 「千切木」

茂山七五三 茂山千三郎 茂山童司 丸石やすし 島田洋海  
 鈴木実 山下守之 松本薫 茂山あきら 茂山茂 井口竜也

解説：茂山千三郎

7月9日(木) チケット発売開始

本館受付および電話予約にてお求めいただけます

全席指定 A席3,500円 B席3,000円

発売初日は、館内窓口販売を9時、電話予約を10時から開始します。(一度に6枚までお求めいただけます。)

※開演時刻・演目・出演者等は、都合によりやむなく変更することがございますので、ご了承ください。

※未就学児の入場はお断りいたします。

『ふるさと彦根応援寄附』にご協力ください

彦根市では、ふるさと納税へのご協力をお願いします。彦根らしい魅力のある6事業の中から、寄附金をどの事業に使うかを指定できます。

事業例

◎ふるさとへの誇り保存整備事業

国宝や重要文化財の建造物・石垣の保存整備、名勝玄宮楽々園の保存整備、武家屋敷や町屋等の購入・保存修理・活用事業など

◎みんなのひこにゃん応援事業

ひこにゃん遠征費用、ひこにゃんイベント参加費用、ひこにゃんお手入れ費用など

と寄附をいどいたる方法

彦根城博物館や彦根城、玄宮園などに1年間無料でご入場いただける「年間パスポート」をお送りします。

※パスポートは縦54mm×横86mm、プラスチック製です。寄附された方のお名前等を印字してお渡します。



寄附のお申込みは・・・

1口5千円からとなります。

彦根城博物館・彦根城管理事務所・彦根市役所1階まちづくり推進室でお申込みください。

ふるさと彦根応援寄附の問い合わせ先  
 彦根市役所まちづくり推進室

TEL：0749(30)6117 FAX：0749(22)1398

<http://www.city.hikone.shiga.jp/kikakushinkobu/furusato/index.html>